

# 7月の農作業

平成21年7月10日  
J A テラル 越前  
奥越農林総合事務所

今月のポイント

梅雨時は病害虫に注意

★ 穂肥の適期施用で

グレードアップ米

★ 間断通水の徹底

★ 水稻の病害虫防除の徹底

(イモチ、モンガラ、イネアザミウマ、カメムシ)

★ 里芋の土寄せと子ズイキ刈り

★ ナスの整枝せん定

★ ネギの排水対策・

土寄せと防除

★ キクの収穫

★ シンテツポウユリの収穫



## 1. 今後の気象予想 (新潟地方気象台)

北陸地方 1か月予報

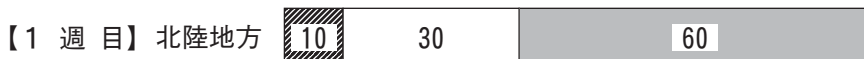
(6月27日から7月26日までの天候見通し)

〈向こう1か月の気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)〉



■ 低い(少ない) □ 平年並 ■ 高い(多い)

〈気温経過の各階級の確率(%)〉



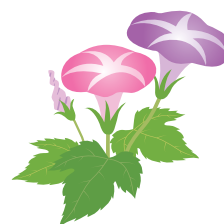
■ 低い □ 平年並 ■ 高い

予想される  
向こう1か月の  
天候

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は左記のとおりです。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は高い確率60%、2週目は平年並または低い確率ともに40%です。



〈予報の対象期間〉	
1 か月	6月27日(土)～7月26日(日)
1 週目	6月27日(土)～7月3日(金)
2 週目	7月4日(土)～7月10日(金)
3～4週目	7月11日(土)～7月24日(金)



北陸地方3か月予報  
 〈7月から9月までの天候見通し〉

〈予想される向こう3か月の天候〉

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

【7月】

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

【8月】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。雷雨の発生しやすい時期がある見込みです。

【9月】

天気は数日の周期で変わるでしょう。



〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)〉

【気 温】

【北陸地方】	3か月	7月	8月	9月
	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)	30% (低い) 30% (平年並) 40% (高い)

【降 水 量】

【北陸地方】	3か月	7月	8月	9月
	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)	40% (低い) 30% (平年並) 30% (高い)

■ 低い(少ない) □ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2、農作物対策

### 水 稲

奥越産米の  
グレードアップは、  
これからが本番！  
食味、品質を高めて、  
『売れる米』を  
作りましょう!!

#### 倒伏軽減剤

過剰生育圃場では、倒伏軽減剤の使用を考慮してください。

なお、使用にあたっては、各支店の営農指導員・普及員にご相談してください。

#### 水管理のポイント

○幼穂形成期以降は、間断通水に努める。特に、コシヒカリの大粒化対策の1つは、土壌水分を保ち肥効を維持することです。

○おくほまれ・五百万石は、幼穂形成期間（特に7月中旬）の低温の日は、不稔を防ぐため湛水し、保温する。

○フーン現象が予想される日は湛水し、稲体の蒸散を防ぐ。

○刈取り5日前までは落水しない。

#### 穂 肥

時期を逃さず、2回で止める。

穂肥の施用時期・施用量は、食味に大きく関与しますので、基本技術を厳守し、食味の安定向上に努めましょう。

ただし、葉色が薄く、地力がない一括側条施肥圃場では、2回目の穂肥期に「テラルのおいさん」10a当り約5〜7kg程度施用する。（地力や気象等十分加味）

#### 【施用時期】

○早 生  
第1回目の穂肥を施用してから1週間後に、第2回目を施用してください。

#### ○コシヒカリ

第1回目の施用時期は、7月中

旬の見込みですが、各支店での作見会、営農特報を参考にしてください。

特に、倒伏防止や圃場毎に生育が異なりますので、必ず幼穂長10mmを確認し、施用してください。



# 病害虫防除

害虫予防は、畦畔の除草から  
一斉防除日の営農特報を参照してください。



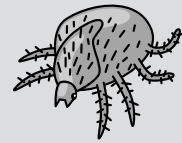
**必ず、2回防除をお願いします。**



(斑点米多発地は3回防除を実施してください)

## ○紋 枯 病

紋枯病は、毎年同じ所に発生しやすく、昨年発生した圃場では注意して見回り、初発を見たら薬剤を株元に吹き付けるように散布してください。



## …………… 一斉防除について ……………

**斑点米の多発地域は3回防除を実施してください。**

1回目 出穂直前 ビームキラップジョーカーDL粉剤

2回目 穂揃期 アルバリン粒剤またはDL粉剤

3回目 傾穂期 カスエルバッサ粉DL粉剤

(アルバリン粒剤〔カメムシ専用〕は水を張って散布してください)

〔1回目は穂が出る直前に散布〕

……………

## 一斉防除の2回防除体系〔通常〕

1回目 穂揃期 ビームキラップジョーカーDL粉剤

2回目 傾穂期 カスエルバッサ粉DL粉剤

# 里芋

## 1、水管理

根の健全な生育を進めるため、排水対策を徹底する。

晴天続きの時は、3〜4日おきに夕方の地温が下がった時に、畝間灌水を行い翌朝には排水を行う。(長時間の滞水はさせないこと)

## 2、子ズイキの

### 刈り込みと土寄せ

7月上旬(本葉7枚以降)より、子芋の栄養成長が盛んになり、子ズイキが発生する。放置しておくとしガシラになり品質がおちるので、2〜3葉期までに必ず刈り込みを行う。

また、この頃より親芋の肥大が盛んになり、子芋の形成が始まるため、浅植えのところは日焼け芋

など品質が悪くなるので、株元を中心に土寄せを行う。



## 3、害虫防除

害虫名	薬剤名	使用濃度	10a当り使用量
ヨトウムシ類	エルサン粉剤 2		3 kg
	トレボン乳	1,000倍	100~200 l
ハダニ	ニッソランV乳剤	1,000~1,500倍	

# ナス

## 1、誘引

・誘引方法は「縦糸誘引」とし、合掌上段の直管パイプに35〜37cmで、等間隔にビニール紐(白糸系統が望ましい)を結び、下段の直管パイプまで引き結ぶ。このビニール紐に4本の主枝が伸びてきたら、随時ビニール紐に結んでいく。この時「テーパー」を使用すると作業が簡易になる。

## 2、追肥

・最初の追肥は、収穫始めと同時に施用する。追肥は生育を見ながら、原則として追肥開始〜7月中旬までは10日間隔、7月下旬〜8月末までは7日間隔とする。

・苦土欠乏になると花が不良になるので、15日置きにサンメイトを施用する。

## 3、敷きワラ

・梅雨明けの高温期には根が弱るので、マルチ下または上にワラやカヤなどを敷く。

尚、完熟堆肥をマルチ下に敷く方法も根を高温から保護するこ  
とができる。

## 4、灌排水

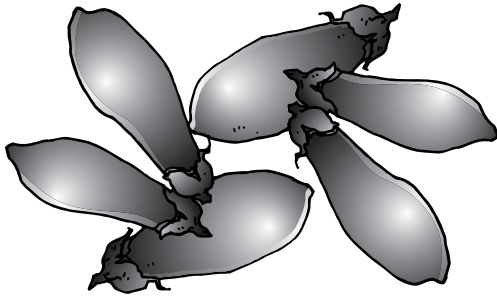
・土壌水分を一定に保つことで根の活力が維持される。

・土壌を湿った状態に保つために高温、乾燥期には夕方に灌水し、早朝に落水する。梅雨、豪雨の時は、たまり水のないように排水に努める。

## 5、収穫

・収穫は原則として早朝に行い、100～120gを中心に収穫する。

尚、収量の多い夏季は前日の夕方  
方に収穫することがあるが、この  
場合気温が下がった夕方5時  
以降とし、果実の軸を長めに残  
す（出荷調整時に再度適当な長  
さに切る）と共に果実の上に濡  
れた布をかけ、屋内の涼しい場  
所に保管する。



## 6、病害虫防除

病虫害名	薬剤名	使用濃度	10a当り使用量	使用時期(収穫)	使用回数
ハダニ	ピラニカEW	2,000倍	150～200ℓ	前日まで	1
ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル	2,000倍	150～200ℓ	前日まで	3
カメムシ類	マラソン粉剤3	—	3kg	前日まで	6
灰色カビ病	セビアーフロアブル20	1,000倍	150～200ℓ	前日まで	3
うどんこ病	ベルクト水	3,000倍	150～200ℓ	前日まで	3

## 白ネギ

### 1、排水対策

梅雨入り前に排水溝の再整備を  
行い、圃場内の排水性を高める。  
（高温時の停滞水は根腐れや軟腐  
病を多発させます）

### 2、乾燥時の灌水

ネギは比較的乾燥には強い  
ため、極端な乾燥による生育不良の場  
合を除いて灌水をする必要はありま  
せん。万一、晴天続きによる乾燥  
で定植株元に強いひび割れが発生  
する等、土が極端に乾燥してきた  
場合で灌水をしなければなら  
ない時は、圃場内に停滞水が出ない程  
度に灌水する。

ただし、灌水は湿害による生育  
不良、軟腐病を誘発する恐れもあ  
るので注意すること。

## 3、病害虫防除

病虫害名	薬剤名	使用濃度	10a当り使用量	使用時期(収穫)	使用回数
黒斑病	ロブラール水	1,000～1,500倍	100～150ℓ	14	3
さび病	ラリール水	2,000倍	100～150ℓ	7	3
軟腐病	バイオキパー水和剤	500～2,000倍	150～300ℓ	発病前～ 発病初期	—
アザミウマ類 ネギコガ	アグロスリン乳	2,000倍	100～150ℓ	7	5
ネギアザミウマ	アルバリン顆粒水	400倍	0.4ℓ/m <sup>2</sup>	14	2
シロイチモジヨトウ	アフーム乳	1,000～2,000倍	150～300ℓ	7	3

# 花卉

## キク

本年の梅雨は降雨が少ない傾向にあり、また、好天が続いておりますのでダニの発生が早くなっております。病害虫防除を徹底して9・10月咲きの品質向上を目指しましょう。

### 8月咲きの管理

- 出蕾期に入り、中輪ギクでは摘蕾作業を行います。早めの作業を心がけてください。
- Bナイン（ホルモン剤・伸張抑制・800〜1,000倍）は、最も早い蕾が確認できた時と摘蕾時に1回ずつ散布します。

### 9月咲きの管理

- 病害虫防除の徹底に努めます。

### 10月咲きの管理

- ピンチ後、20日程度で草丈が5cm以上になります。1株3本前後で、すぐり（間引き）を行います。
- すぐり後は株張りが十分ではないので、雨風などで倒れる恐れがあります。早めにネットを上げてください。

### 病害虫防除

既に管内全域でダニの発生が見受けられます。

#### ○ダニ

ハダニ類は、25〜28℃くらいの温度で乾燥した状態であると、繁殖し出します。

多発すると防除が困難になるので、早期発見に努めて寄生密度の低い間に防除します。（目安を25℃とする）

かけむらのないよう、吹き上げで丁寧散布し、また、単剤での散布を行ってください。

ダニは抵抗性をつきやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布します。

#### 【主な使用農薬】

##### 卵〜幼虫

オサダンフロアブル・ニツソラン

##### 卵〜成虫

バロックフロアブル・マイトコー

ネフロアブル・ダニカット乳剤・

粘着くん

カネマイトフロアブル（出蕾時に散布すると薬害の恐れあり）

#### ○白さび・黒斑褐斑・灰色

カビ病

#### 【主な使用農薬】

ジマンダイセンフロアブル・ダ

コニール1,000・ベンレート水和剤など

#### ○スリッパス

（アザミウマ類）

蕾の中にスリッパスなどが入りますと防除が困難になり品質が低下しますので、開花の早い品種から防除を徹底してください。

#### 【主な使用農薬】

ジェイエース水溶剤・ハチハチ乳剤・コテツフロアブル・プリンフロアブル

## スプレーギク

- 7月の作業は、挿し芽・圃場の準備・定植を行います。



# ユリ

○草丈が20cmまでは液肥（OKF1  
1・500～1,000倍）を1週間に1度  
程度施用します。

○抽台以降は、灌水は行わず、極  
端に乾燥した場合は適宜灌水を  
行う。

## 病害虫防除

### ○葉枯病

葉枯病が発生すると農薬を散布  
しても病気を抑えにくいので、予  
防を徹底しましょう。

#### 【主な使用農薬】

ダコニール1000・フロンサイド水  
和剤・フルピカフロアブル・トッ  
プジンM水和剤

### ○アブラムシ

#### 【主な使用農薬】

ジェイエース水溶剤・トレボン  
乳剤・アドマイヤーフロアブル

